

資料 4

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第5回) R1.5.30

中央教育審議会大学分科会 教学マネジメント特別委員会 (第5回) 委員御提出資料

- | | | |
|---|-----|----|
| ○ 日比谷座長 (国際基督教大学学長) | ・・・ | 1 |
| ○ 浅野委員 (山形大学学術研究院教授、名古屋大学 I R 本部特任教授) | ・・・ | 4 |
| ○ 沖委員 (立命館大学教育開発推進機構教授) | ・・・ | 7 |
| ○ 川並委員 (学校法人東京聖徳学園理事長・学園長、聖徳大学・聖徳大学短期大学部学長) | ・・・ | 8 |
| ○ 清水委員 (山梨県立大学理事長・学長、筑波大学名誉教授) | ・・・ | 17 |
| ○ 但野委員 (独立行政法人国立高等専門学校機構理事、函館工業高等専門学校校長) | ・・・ | 20 |

(順不同)

GPAの算定方法

学業成績をはかる基準として、成績平均点数(GPA)を採用

1. 成績点数は、A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点, E = 0点として、該当する点数に科目単位数を乗じて算出
2. 成績平均点数(GPA)は成績点数の合計を総履修単位数で除すことで算出
再履修した科目の単位も集計に加えられる

$$\text{成績平均点数 (GPA)} = \frac{\text{科目単位数} \times \text{成績点数} \text{ の和}}{\text{総履修単位数}}$$

授業科目名	単位数	評価	ポイント数
哲学の諸問題 I	3 単位	A	4.00 × 3 = 12.00
アメリカの政治	2 単位	C	2.00 × 2 = 4.00
コンピュータ言語	3 単位	B	3.00 × 3 = 9.00
法学概論	3 単位	A	4.00 × 3 = 12.00
知覚心理学	2 単位	E	0.00 × 2 = 0.00
合計	13 単位 (①)		37.00 ポイント (②)

GPA = ② ÷ ① → 37 ÷ 13 = 2.85 ポイント

GPAの利活用

Dean's List

- 前学期の学期GPAが3.70以上で、かつ12単位以上の科目を登録、単位修得した学部学生に対し、教養学部長より表彰と奨励の意味を込めて文書(Dean's List Letter)を授与する

成績不良者

- 学生が、休学・登録取消または退学した学期を除いて、3学期間続けてもしくは合計で4学期間成績平均点数が1.00未満の場合、学則第60条に基づき除籍それに先立って、副部長、学部長が面談を実施

教職・学芸員過程・留学・奨学金等の基準

- 未知の可能性をもった児童生徒を教育するという責任の重大さを考え、本学では教職課程を履修しようとする学生は、原則として第2年次の第3学期までに履修したすべての科目の**GPAが2.50以上**であることを必要としています。(2019年度教職課程の手引より)
- 博物館における専門的な職員である学芸員の文化的および公共的職務にかんがみ、本学で学芸員の資格を取得しようとする学生には、原則として**2年次第3学期(登録6学期目)までに取得した科目のGPAが2.5以上**であることを課しています。(2019年度学芸員課程修の手引より)
- **累積の学業成績平均(GPA)が3.00以上**ある者。(2019-2020年度交換留学/海外留学プログラム応募の手引きより)
- **応募時の平均 GPA が 1.5 以上**(1年生の第一期、博士後期課程学生は不要)であること。(2019年度奨学融資集要項より)

成績評価について

成績は、AからEの5段階。D以上を合格。
シラバスに記載した成績評価基準に基づき、中間/期末試験の成績、課題やレポートの内容などを、合計を100点を満点として点数化。

項目 / 点数	100 - 90	89 - 80	79 - 70	69 - 60	59 - 0
成績	A	B	C	D	E

A(優) その科目において要求される程度をこえて特に優秀な成績

B(優) その科目の要求にふさわしい優れた成績

C(良) 一応、要求をみたす成績

D(可) 合格と認められる最低の成績

E 不合格

- 新任教員オリエンテーションプログラムで、アセスメント、成績評価、ルーブリック、フィードバック等について、レクチャーとディスカッションを行う。
- メジヤ一毎、コースレベル毎の成績配分表(Grade Distribution) を学内で共有。

G P A 制度

合格した成績の評定を S, A, B, C の 4 段階で行い、成績を平均化した G P A (Grade Point Average) を全学的に導入しています。

(1) G P A の対象となる授業科目

適用除外科目を除くすべての授業科目が G P A の対象となります。

また、以下の科目は適用除外科目であり、G P (Grade Point) が付加されません。

- 1 合格か不合格かだけを判定する授業科目
- 2 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4 他大学との単位互換等で修得した科目

教育職員免許や学芸員等の資格取得が目的で、卒業要件単位数に含まれない科目についても、G P A の算定対象となりますので、ご注意ください。

(2) 成績評価の評定記号と付加する G P

成績評価は点数方式で行われ、以下の評定記号 (S ~ F, N) に応じ、それぞれの評定区分に応じた G P が付加されます。

評価区分	評定記号と評価内容	付加する G P
100~90点	S (秀) : 特に優れた成績である	4
89~80点	A (優) : 優れた成績である	3
79~70点	B (良) : 概ね妥当な成績である	2
69~60点	C (可) : 合格に必要な最低限度を満たした成績である	1
59~0点	F (不可) : 合格には至らない成績である	0
	N : 単位認定科目であり、G P A の対象としない	なし

(3) G P A の定義

G P A は、G P A 対象授業科目のうち、履修登録した科目 (履修登録後、履修取消を行わなかった科目も含む。) についてそれぞれの単位数にグレードポイント (4, 3, 2, 1, 0 のいずれか) をかけ、その合計ポイント G P S を、それぞれの単位数の総和で割ったものとなっています。

(例) G P A 算出方法

科目名	評定	単位数	G P	
○○○○○○基礎	S	2 単位	4	$2 \times 4 = 8$
△△△△△実験 1	F	1 単位	0	$1 \times 0 = 0$
◇◇◇◇◇実験 2	A	2 単位	3	$2 \times 3 = 6$
合 計		5 単位	14 点 (G P S)	

$$G P A = 14 \text{ 点} \div 5 \text{ 単位} = 2.8$$

(この単位数↑には F : 不合格科目の単位数も含まれます。)

(4) 再履修した科目の学習成績

不合格となった科目を再履修した場合は、不合格の学習成績と新たな学習成績のデータが併記して累加記録に記録されます。(成績確認表とサポートファイルにも表示されます。)

〇〇年度 科目成績分布一覽

【領域】

領域	領域・授業科目名	開講 コマ数	履修者数	履修総 単位数	成績評価区分(GP)別履修者数					GP合計	GPA	前年度 GPA
					F(不可 0点)	C(可 1点)	B(良 2点)	A(優 3点)	S(秀 4点)			
A	XXXX	49	1,695	3,390	25	65	185	498	922	11,234	3.31	3.20
	YYYY	4	354	622	2	62	15	109	166	1,858	2.99	-
B	BBBB	17	750	1,500	25	81	159	304	181	4,070	2.71	2.80
	CCCC	21	954	1,908	22	66	138	375	353	5,758	3.02	2.38
	DDDD	38	1,689	3,378	39	69	150	659	772	10,868	3.22	3.08
C		55	5,939	11,878	365	800	1,627	2,107	1,040	29,070	2.45	2.58
		1	183	366	8	9	62	101	3	896	2.45	2.47
		1	11	22	0	1	0	6	4	70	3.18	3.12
		11	1,239	2,478	33	32	239	610	325	7,280	2.94	2.71
		3	124	248	9	29	34	30	22	550	2.22	2.55
		3	385	770	11	22	117	175	60	2,042	2.65	2.83
		4	1,050	2,100	57	187	332	315	159	4,864	2.32	2.32
		3	478	956	26	89	160	109	94	2,224	2.33	2.46
		4	198	396	12	9	21	93	63	1,164	2.94	2.13
		5	250	500	20	51	64	58	57	1,162	2.32	2.88
		6	465	930	50	73	110	144	88	2,154	2.32	2.03
		5	359	718	23	83	73	134	46	1,630	2.27	2.08
		4	425	850	46	82	163	120	14	1,648	1.94	1.36
		5	772	1,544	70	133	252	212	105	3,386	2.19	2.19
		34	2,938	5,876	169	259	632	1,038	840	15,994	2.72	2.72

【科目別】

領域	授業科目	主担当教員名	学期	単位数	履修者数	履修総 単位数	F(不可 0点)	C(可 1点)	B(良 2点)	A(優 3点)	S(秀 4点)	GP合計	GPA
A	XXXX		前期	2	35	70	0	0	1	3	31	270	3.86
			前期	2	35	70	1	2	4	1	27	242	3.46
			前期	2	35	70	0	4	4	11	16	218	3.11
			前期	2	35	70	1	0	7	14	13	216	3.09
			前期	2	35	70	1	2	5	5	22	230	3.29
			前期	2	35	70	0	0	5	4	26	252	3.60
			前期	2	35	70	1	0	3	9	22	242	3.46
			前期	2	35	70	0	2	1	6	26	252	3.60
			前期	2	35	70	1	1	2	12	19	234	3.34
			前期	2	35	70	0	2	3	5	25	246	3.51
			前期	2	35	70	1	1	1	11	21	240	3.43
			前期	2	35	70	0	0	1	8	26	260	3.71
			前期	2	35	70	0	0	0	1	34	278	3.97
			前期	2	34	68	1	1	7	22	3	186	2.74
			前期	2	35	70	0	3	10	13	9	196	2.80
			前期	2	35	70	1	0	3	7	24	246	3.51
			前期	2	35	70	2	0	4	5	24	238	3.40
				YYYY		前期	2	124	248	0	60	4	57
前期	2	72				144	1	0	1	13	57	538	3.74
前期	2	72				144	0	0	4	25	43	510	3.54
前期	1	86				86	1	2	6	14	63	308	3.58
領域A計				-	2,049	4,012	-	-	-	-	-	13,092	3.26
B	BBBB		前期	2	52	104	1	16	12	15	8	234	2.25
			前期	2	54	108	5	4	6	33	6	278	2.57
	CCCC		前期	2	54	108	2	0	24	21	7	278	2.57
			前期	2	54	108	1	3	4	17	29	356	3.30
			前期	2	50	100	1	17	15	7	10	216	2.16
			前期	2	53	106	2	0	8	28	15	320	3.02
			前期	2	51	102	1	8	7	17	18	290	2.84
			前期	2	53	106	1	1	0	23	28	364	3.43
			前期	2	20	40	1	1	3	11	4	112	2.80
			前期	2	26	52	0	0	2	19	5	162	3.12

平成30年（2018年）5月10日

山形大学における基盤共通教育改革 ～大学生に必要な基本的学修スキルの向上に向けた取組～

【本件のポイント】

- 従来の授業方法等を見直し、共通の教材や課題による全学部混合型のクラス編成とグループ学習を基本とする導入科目として設計
- 同じ学習形態を2回繰り返すことにより、前半での学びの「型」を着実に身に付けさせる学生主体型授業として展開（詳細は図1参照）
- 平成30年度は、新たな試みとして平成29年度履修者（2年生）が「ピア・メンター^{※1}」として新入生のグループ学習を支援



【概要】

山形大学における3年一貫の学士課程基盤教育改革^{※2}の一環として、基盤共通教育の導入科目である「スタートアップセミナー」を平成29年度から見直しました。その際、図1の基本的な考え方に沿って、総合大学としての強みを活かし、全学部混合型のクラス編成とすること、共通の教材と課題を開発し授業の均質化を図るなどしています。本授業に対する平成29年度受講者の平均満足度は5点満点中4.15ポイント「大学で初めてレポートを書いたりプレゼンをしたりする機会なので大切にしたい」「6学部一緒に授業を受ける中で交流し合い色々な考えを聞ける貴重な機会だと思うので、そこを大事にしたい」といった声が寄せられました。

- ・4つの技術を身に付け、使いこなすために「学びの型」として「4つの活動」を提示する。
- ・「4つの活動」はグループワークを基礎とし、多様なメンバーとの協力の中で学びに取り組む。
- ・定められたテーマに対し「4つの活動」による学びを繰り返す（2サイクル）ことにより、学びの型を身につけていく。

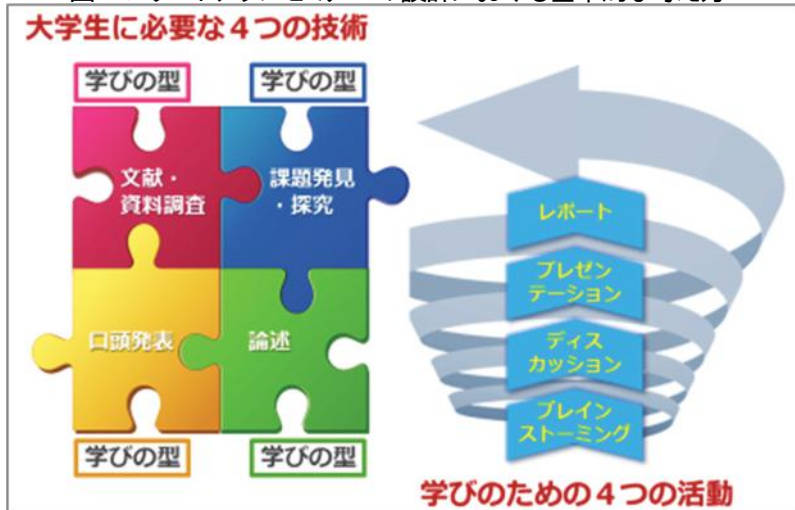
【今年度の取組】

平成30年度は、スタートアップセミナーの一部の授業を担当教員による監修の下、平成29年度履修者（2年生）が「ピア・メンター」として新入生のグループ学習を支援します。教員ではなく、より身近な存在である先輩との協働による学生主体型授業としての完成度を高めていきます。

※用語解説

1. ピア・メンター： 「同じ道の少し先を行く人」として一年生の主体的な学びを支える学生のこと
2. 3年一貫の学士課程基盤教育改革：本学では従来の教養教育を改め、カリキュラムの構成要素ごとに、目的・目標に応じた科目群で区分する「基盤教育」を平成22年4月から展開しています。平成29年度からは、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」と「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）」の3つのポリシーに基づいた全学横断の3年一貫学士課程基盤教育として体系化し学士課程教育を再構築する改革を進めています。

図1 スタートアップセミナーの設計における基本的な考え方



お問い合わせ（メールアドレスの★は@に置き換えてください）
学術研究院准教授（基盤教育担当）橋爪孝夫
TEL 023-628-4487 メール hasidume★kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年5月30日 第5回教学マネジメント特別委員会

立命館大学の事例

立命館大学 沖 裕貴

1. 単位を認定する到達水準の学部間における統一状況や、統一のための取組例

単位を認定する到達水準は、学部内においては常に点検されているが、学部間における取組は報告されていない。

2. 成績評価におけるルーブリックの活用状況

全学的な調査は行われていないが、各学部とも基礎演習等の同一科目複数クラス開講科目や卒業論文等について、ルーブリックの利活用が進んでいる。また、実験・実習科目や外国語の授業における成績評価にもルーブリックの活用が盛んである。一方、一般の講義科目ではあまり活用は進んでいないが、レポート等を主な成績評価物として利用する場合には、事前にルーブリックを提示し、成績評価を行っている事例も多数報告されている。

3. 複数の教員が担当する同一の科目における評価の平準化方策

教養科目を含め、各学部の同一科目複数クラス開講科目については、科目概要、到達目標、内容、成績評価方法・基準の標準化を進めており（2014年学部（学士課程）教学改革ガイドライン）、全学的にほぼ標準化を達成している。

なお、シラバス点検や科目内の標準化のためのFDは、教養科目については科目の基本担当者（専任教員）が、専門科目については、学部執行部が行っている。また、教職科目等の資格科目については、教職センター等の専任教員が行っている。

4. GPAの算定方法や分布の公表状況や、GPAの利活用の状況

GPAの算定式は以下の通りである。

$$\frac{5 \times A + \text{修得単位数} + 4 \times A \text{ 修得単位数} + 3 \times B \text{ 修得単位数} + 2 \times C \text{ 修得単位数}}{\text{A+、A、B、C、F 評価の合計単位数}}$$

A+、A、B、C、F 評価の合計単位数

※自由科目（卒業・修了要件に算入しない科目）はGPA計算の対象になりません。

※副専攻科目は、コース修了に必要な単位数を満たしていない場合でも、GPA計算の対象になります。

なお、多くの学部（理工、情理、スポ健等々）で学部・学科の学年ごとのGPA分布をWebに公表している。また、留学先への提示や、奨学金受給、大学院進学等の資料としての活用が行われている。

4. 学科長又は研究科長は、検討の結果を教務委員長に報告する。
5. 教務委員長は、検討の結果を確認する。

記

<成績評価点検項目>

成績評価報告書に記載された科目について、以下の項目を複数の委員で点検する。

	点検項目	備考	成績評価報告書 該当項目番号
①	成績評価報告書について、必要な項目すべてに記入しているか。		
②	評価がシラバス記載の「総合評価の割合」に則って適正に行われているか。	変更した理由がはっきりしている場合は不適合としない。	3. の 1)
③	「成績評価報告書」への記載内容と、実際の評価とに著しい食い違いがないか。		3. の 2)
④	該当科目の成績評価平均値 ^注 が 1 点以上 3.5 点未満になっているか。	範囲から乖離している根拠や理由がはっきりしている場合は不適合としない。	根拠・理由は 4. を参照
⑤	成績評価の姿勢に疑問点や問題点がないか。		4.

注：成績評価平均値とは、本試験の成績評価について、S を 4 点、A を 3 点、B を 2 点、C を 1 点、D を 0 点とし、それぞれの学生数を乗じ、総数で割った値を指す。なお、失格等は含めない。

以 上

成績評価におけるルーブリックの活用状況

聖徳大学
聖徳大学短期大学部

聖徳教育Ⅲ

◆授業科目 <SEITOKU Academic Literacy I II III>

1. SEITOKU Academic Literacy I

リテラシーのうち、「ことば」で的確に自分の思いを伝える力を育成する授業科目です。

(ルーブリック実施なし)

2. SEITOKU Academic Literacy II (Logical Thinking 2)

論理的思考力を養成し、問題発見とそれを解決するための思考法・技術の習得を育成する授業科目です。

3. SEITOKU Academic Literacy III (キャリア総合演習 I、キャリア実践演習 I)

聖徳夢プロジェクトのなかで、自立した力を備え職業(キャリア)をデザインする基礎力を育成することを目的とします。

◆ルーブリックの活用例 -SEITOKU Academic Literacy III 教材 抜粋-

SEITOKU Academic Literacy III : Self Directing の学習成果は、「到達目標」と対応し、これを具体的に実現する評価指標となります。点数は、学習のプロセスを評価することに重点を置いています。その主たる理由は、(3)(4)(5)(6)の活動展開を評価するとともに、これを自己点検しながらステップアップしていく自己管理能力の育成を重視していることにあります。

「到達目標」 6つの目標を設定しています。

- (1)自己管理能力 (2)自己省察力 (3)構想・発表力 (4)グループワーク力
(5)リーダーシップ力 (6)キャリアデザイン力

学習成果の目安

目 標	理想的な学習成果の評価指標 (目安)	点 数	標準的な学習成果の評価指標 (目安)	点 数
(1)	キャリアビジョンを明確にすることができる。	15	キャリアを展望することができる	8
(2)	「自ら学ぶ」自己管理を確立している。	15	「自ら学ぶ」自己管理の姿勢ができてきている。	8
(3)	自分の意見を組み立て、それを的確に文章で構成できる。	15	自分の意見を述べ、文章で構成できる。	8
(4)	グループワークに積極的に取り組むことができる。	15	グループワークに協力することができる。	8
(5)	自ら積極的にリーダーシップを発揮することができる。	15	友人のアドバイスでリーダーシップを発揮することができる。	8
(6)	キャリアビジョンを明確に述べるることができる。	15	キャリアビジョンを描くことができる。	10
	次の課題と取組を具体的に述べるることができる。	10	次の課題を具体的に述べるることができる。	10
	計	100	計	60

■音楽実技Ⅰ・Ⅱ及び音楽Ⅰの事例

・全担当教員が共通シラバスにより授業を行っている。また、共通シラバスにおいて、授業の到達目標、出席要件、授業方法、評価方法と採点基準及び履修上の注意事項などを示している

・共通教材 テキストとしてバイエル、伴奏付けワークブック、及びレッスンノートなどすべて共通の教材を使用している（テキスト 教材 参考図書参照）

<児童学部 初等教科研究・音楽実技Ⅰ 共通シラバス>

授業科目名称	初等教科研究・音楽実技Ⅰ（1年春学期）						
サブタイトル	ピアノ実技						
授業区分	専門教育科目	単位数	2単位	開講時期	通年	出席要件	4/5以上
担当教員	専任教員及び兼任教員					授業形態	演習
質問受付の方法	授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。（7622：音楽Ⅰ研究室）						
到達目標と学習の成果	<p><u>到達目標</u></p> <p>(1)目的 幼児・児童の教育現場に求められるピアノの演奏技術、音楽表現の基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>(2)到達目標</p> <p>①伴奏の基本となる「主要三和音」を理解し、子どもの歌を通して実践することができる。 ②読譜に必要な音楽理論を理解できる。 ③自分の能力を適切に認識し、それに応じた練習計画を立てることができる。 ④学習した必須課題の子どもの歌を持ち曲にし、さらにレパートリーを拡充できる。</p> <p><u>学習成果</u></p> <p>①小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域（表現）のねらい、内容等を明確に述べることができる。 ②表現力豊かにピアノを演奏することができる。 ③童謡の弾き歌いができ、現場の場面に応じたピアノを演奏することができる。 ④子どもの歌に伴奏を付けることができる。 ⑤基礎的な音楽理論を理解できる。 ⑥自分の能力に応じた練習計画を立てることができる。</p>						
ディプロマポリシーとの関連	<p>①・未来の子ども達に伝える芸術や文化に関する教養を持ち、社会の発展に寄与する人を育成する。 ・音楽の豊かな表現方法でピアノを通し子どもとコミュニケーションをとるとともに、様々な問題に対して主体的に解決することができる。</p> <p>②本科目はカリキュラムマップの「幼児教育を探究する」に位置付けられている。</p>						
授業の方法	<p>・国内外における豊富な実務経験（演奏・指導）を持つ教員が実践的に行う。</p> <p>・1クラス8名前後の小グループに分かれ、それぞれ個人レッスンを受講する。</p> <p>・予習（練習）してきたバイエルや子どものうた、伴奏付けのレッスンを受講する。</p> <p>・受講後、レッスンで受けたアドバイスを、楽譜やレッスンノートに書き留め、</p>						

	<p>次週の課題や練習ポイントを明確化し、一週間の練習に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学生のレッスンを聴講して参考になる事をレッスンノートに書き留める。 ・授業の最後にテキストを読んで分からなかったことについて質問する。 ・幼稚園教諭・保育士・小学校教諭に必要な演習をグループワーク形式で実施する。
テキスト 教材 参考図書	<p>バイエル 音楽 I 研究室 聖徳大学出版会</p> <p>子どもと遊ぼう！ピアノ・レパートリー 音楽 I 研究室 聖徳大学出版部</p> <p>子どもと歌おう！《新版》幼児とともに 音楽 I 研究室 聖徳大学出版部</p> <p>バイエル併用曲集 音楽 I 研究室</p> <p>伴奏付けワークブック 音楽 I 研究室</p> <p>グループ曲集 1 音楽 I 研究室（聖徳大学 Moodle を利用する）</p>
評価の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に求められる演奏表現が身についていること。 ・2年次春学期までの各学期末の演奏発表、及び、修了課題試験において、表現力が身についていること。 ・ピアノ・レパートリー、幼児とともに、伴奏付けの副課題を修了していること。
評価方法と採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次秋学期に実施する修了課題試験（100%）で評価する。 ・ピアノ・レパートリー、幼児とともに、伴奏付けの副課題を修了していること。 <p>※これら全てが必修課題である。</p>
履修上の注意事項 や 学習上の助言など	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに記載されている受講ルールを守ること。 ・事前に予習（練習）をしてレッスンに臨むこと。 ・シラバスの目標進度を意識して練習計画を立てること。 ・授業で使用するテキスト類を持参すること。

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	《ガイダンス》 本授業の目的を理解する。授業の概要、導入テキスト 「バイエル」の使い方を理解する 鍵盤と五線、音符・休符の種類と長さを理解する	目的の理解 鍵盤と五線 音符・休符の理解	予習：毎日60分 第2回の準備 バイエル p. 4～11 を読み、練習する
2回	《椅子の座り方、姿勢、基本的な打鍵法を理解》 バイエル目標番号：No. 1, 2, 3, 4	椅子の座り方 姿勢 打鍵の基本	予習復習：毎日60分 第3回の準備 バイエル p. 12～13 を読み、練習する
3回	《レガート奏に挑戦》 目標番号：No. 5, 6, 7 「幼児とともに」	レガート奏 伴奏型の弾き方	予習復習：毎日60分 第4回の準備 バイエル p. 14～19 を読み、練習する
4回	《右手と左手の動きの違いを理解、メロディーの歌い方》 目標番号：No. 8, 9, 10, 11 「幼児とともに」	左右の動きへの意識 メロディーの歌い方	予習復習：毎日60分 第5回の準備 バイエル p. 20～25 を読み、練習する
5回	《6度音程の響き、左右の動き、右手の旋律の響きを聴く》 目標番号：No. 12, 13, 14, 15 「幼児とともに」	音の響きを聴く	予習復習：毎日60分 第6回の準備 バイエル p. 26～27 を読み、練習する
6回	《2つのメロディーの流れを聴く》 目標番号：No. 16, 17 「幼児とともに」	2つのメロディーを聴き分ける	予習復習：毎日60分 第7回の準備 バイエル p. 28～33 を読み、練習する
7回	《スラーとタイの違いを理解、新しいポジションを理解》 目標番号：No. 18, 19, 20 併用曲	スラーとタイの違い	予習復習：毎日60分 第8回の準備 バイエル p. 34～39 を読み、練習する
8回	《右手の新ポジション、ダ・カーポとは、2つの旋律を聴く》 目標番号：No. 21, 22, 23 併用曲	2つのメロディーを聴き分ける	予習復習：毎日60分 第9回の準備 バイエル p. 40～45 を読み、練習する
9回	《短調の響きを感じる、さまざまな音符～長さの関係を知る》 目標番号：No. 24, 25, 26	短調の響きを感じる	予習復習：毎日60分 第10回の準備 バイエル p. 46～51 を読み、練習する
10回	《なめらかな旋律、付点のリズムに乗る》 目標番号：No. 27, 28, 29 「おはようのうた」、併用曲 「伴奏付けワークブック」よりハ長調	付点奏 レガート奏	予習復習：毎日60分 第11回の準備 バイエル p. 52～57 を読み、練習する
11回	《8分の6拍子、左手位置移動、クレッシェンド等の知識》 目標番号：No. 30, 31, 32 「おはようのうた」、併用曲 「伴奏付けワークブック」よりハ長調	6/8拍子のリズム感 クレッシェンドとデクレッシェンド	予習復習：毎日60分 第12回の準備 バイエル p. 58～61 を読み、練習する

12回	《もしかしてカノン？ポジション移動のオンパレード》 目標番号：No. 33, 34 「さよならのうた」 「伴奏付けワークブック」よりハ長調	2つのメロディーを 聴き分ける ポジション移動	予習復習：毎日 60 分 第 13 回の準備 バイエル p. 62～65 を読み、練習する
13回	《ユニゾンで強弱の幅を広げる、メロディーをきれいに歌う》 目標番号：No. 35, 36 「さよならのうた」 「伴奏付けワークブック」よりハ長調	レガート奏 強弱法 演奏時の集中力	予習復習：毎日 60 分 第 14 回の準備
14回	《春学期のまとめ 1》 演奏発表の準備 演習発表の準備	演奏時の集中力	予習復習：毎日 60 分 第 15 回の準備
15回	《春学期のまとめ 2》 各自の進度曲 1 曲をクラス全員の前で演奏する	演奏時の集中力 聴く力	反省とまとめ 予習復習：毎日 60 分 秋学期に向けた準備

◆修了課題曲：単位認定のための修了課題を試験前に発表する。

◆採点方法：修了課題試験において、複数の採点教員を配置して試験を実施し、その平均点を試験得点とし評価している。

G.P.A (Grade Point Average) について

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

1. G.P.A の算定方法 ー学生便覧 抜粋ー

G.P.A (Grade Point Average)

平成 11 年度より、学生個々の学修達成度を評価するために、G.P.A 制度を導入しています。

これは、履修した成績を下記の計算方法により換算することによって、より具体的に個人の学修達成度が把握できることになるとともに、努力目標がより明確に設定されることにより、学修意欲が一層喚起されることが期待されます。

〔算出方法〕

$$\text{G.P.A} = \frac{(\text{S}=4) + (\text{A}=3) + (\text{B}=2) + (\text{C}=1) + (\text{D, 失格等}=0) \text{ の合計}}{\text{履修科目数}}$$

※課程等の卒業所要単位数に含まれない科目は除く

※学期毎に保護者に送付する成績表に、G.P.A のポイントとクラス内での順位を記載します。なお、外部に発行する成績証明書には記載されません。

※履修登録科目を途中放棄すると成績が失格となり、G.P.A のポイントを下げることになります。したがって、履修登録に際してはその点をよく考慮して、授業への積極的な出席を心がけるようにしてください。

2. GPA による履修指導 ー履修規程 抜粋ー

クラス担任に対して、学生の学習等に関する面接指導を行うための情報として、入学から当該学期までの個人の GPA の数値及び担任クラス平均の数値の集計結果を提供している。また、学部長及び学科長に対して、該当学科の GPA の集計結果を提供している。

これに基づき、学生に対して学習面に関する面接指導を行っている。

3. GPA の活用

①履修登録における活用 ー履修規程 抜粋ー

第 5 条の 2 各年次において履修登録できる単位数は、1 年間で 40 単位を上限とする。ただし、教員免許状及び諸資格を取得する場合は、1 年間で 40 単位を超えて履修登録することができる。

2. 学生が取得できる教員免許状及び諸資格は、必修を除き 2 種類以内とする。ただし、1 年次の成績が一定の水準 (GPA2.5) 以上に達した場合は、3 種類以上の教員免許状及び諸資格を取得することができる。

3. 第 2 項の教員免許状及び諸資格の適用については、別に定める。

②退学勧告における活用 ー履修規程 抜粋ー

第 2 5 条の 3 学長は、学生のうち成績が不良で学業を継続することが困難であると判断した者に対して、退学を勧告することができる。

■ 履修規程 第 25 条の 3 の規定に基づく退学勧告に関する内規

第 1 条 学期GPAが2 学期連続して 1.00 未満の学生に対して、次学期履修登録までに、教務委員及びクラス担任が面接による履修指導・助言を行うものとする。

第 2 条 学期GPAが3 学期連続して 1.00 未満の学生のうち、学業を継続することが困難であると判断した者に対して、学長は退学を勧告することができる。ただし、累積GPAが 1.00 以上の場合は、勧告の対象としない。

③教育実習履修基準における活用

小学校教育実習履修基準 一実習要項 抜粋一

小学校教育実習は、児童学科の幼稚園教員養成コース、保育士養成コース、特別支援教育コース（幼稚園免許を卒業要件とする者）、児童心理コース、児童文化コース及びスポーツ健康コースの学生が当該年度（2 年次附属小学校、4 年次外部委託小学校）に教育実習（選択）に派遣されるためには、次の表の各項目について、条件を充足していなければならない。

	教育実習	事前指導	修得単位数	教科・教職科目	GPA	附属小実習	その他
2 年次	附属小	附属用 修了	31 単位以上 (1 年次) 次の必修科目イの科目を含むこと。	次の必修科目イの科目に関して、不合格、失格科目がないこと。	2.00 以上 (1 年秋学期まで)	合格	実習させるのに不適格でないこと。
4 年次	外部 委託小	外部用 修了	62 単位以上 (2 年次まで) 次の必修科目イロの科目を含むこと。	次の必修科目イロハの科目に関して、不合格、失格科目がないこと。	2.00 以上 (3 年秋学期まで)		

イ 授業科目(1 年次)	単位	ロ 授業科目(2 年次)	単位	ハ 授業科目(3 年次)	単位
初等教科研究・国語	2	初等教科研究・社会	1	初等教科研究・生活	2
初等教科研究・書道	1	初等教科研究・音楽実技 I (1~2 年次)	2	特別支援教育総論	2
(略)					
		音楽科教育法	2		
		生徒指導(進路指導を含む)	2		
小計	14 または 12	小計	30	小計	15 または 17
合計					59

GPA制度について（学生説明用）

山梨県立大学 教育委員会

本学では、より質の高い高等教育機関を目指して、21世紀における大学のあり方を継続的に検討しています。その一環として、今年度より学生の皆さんが自己の学修状況を客観的に把握し、履修計画を適切に立て、意欲的に学修に取り組むことができるようにGPA制度を導入しています。以下に、この制度の概要について説明します。

1. GPAとは

GPAとは、Grade Point Averageの略語で、アメリカにおいて広く用いられる学生の成績評価方法の一種です。その一般的な方法は、授業科目ごとの5段階成績評価(本学では、S・A・B・C・D)のそれぞれに対して4, 3, 2, 1, 0などのGrade Point (GP)を与え、履修登録した科目ごとにGPと単位数をかけ合わせて得られた値(取得点)を合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割り、1単位あたりに換算して平均値を算出するというものです。

この方法により算出された数値は「1単位を平均的にどのレベルの成績で修得できているかを示す指標」となります。つまり、これまでのように修得した総単位数や高評価(S・A)科目の数などにより学修した成果を量的に判断するだけではなく、GPAによって全成績を1科目1単位に換算し、学修への取り組みを質的に把握して学修成果を判断することが可能となります。また、単位未修得科目についてはGP=0として算入されますので、履修計画を適切に立て学修を進めることが求められます。

2. 本学におけるGPA算出方法

制度の導入にあたり、全学教育委員会で検討を重ねた結果、本学では「5段階成績評価の根拠となる『素点』に対応するGP(下表)」を用いる算出方法を採用することにしました。

成績評価と素点・GPとの対応表

評価	S										
素点	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90
GP	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5

評価	A										
素点	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	
GP	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5	

評価	B										
素点	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	
GP	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6	1.5	

評価	C										
素点	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	
GP	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	

評価	D										
素点	59点以下										
GP	0										

一般的な算出方法による GPA 制度のように、実質的に 10 点 (S は 11 点) の得点幅を持つターゲットグレード (S・A・B・C・D) を GP (4, 3, 2, 1, 0) に置き換えるのではなく、表にあるように、各素点に対応する GP を割り当てて算出します。それでは実際の GPA 算定の事例を、2 人の学生 (A, B) を例にして見てみましょう。

GPA 算定の事例

科目	学生 A	学生 B
総合英語 I a (2 単位)	79 点 (GP=2.4)	80 点 (GP=2.5)
情報リテラシー (2 単位)	69 点 (GP=1.4)	70 点 (GP=1.5)
運動と人間-実技 (1 単位)	79 点 (GP=2.4)	70 点 (GP=1.5)
GPA	2.0	1.9
素点平均点	75.7 点	73.3 点

学生 A: 「総合英語 I a」 GP=(79-55)/10=2.4 「情報リテラシー」 GP=(69-55)/10=1.4
「運動と人間-実技」 GP=(79-55)/10=2.4
 $GPA=(2.4 \times 2 + 1.4 \times 2 + 2.4 \times 1) / 5 = 2.0$

学生 B: 「総合英語 I a」 GP=(80-55)/10=2.5 「情報リテラシー」 GP=(70-55)/10=1.5
「運動と人間-実技」 GP=(70-55)/10=1.5
 $GPA=(2.5 \times 2 + 1.5 \times 2 + 1.5 \times 1) / 5 = 1.9$

この事例からも、素点平均点による成績 (75.7, 73.3) と GPA (2.0, 1.9) がほぼ正確に一致し、学生の学修状況・成果が、適正に数量化されていることがわかります。

3. GPA 算定の対象となる科目

- (1) 100 点を満点とする素点により成績評価されるすべての授業科目を対象とします。
- (2) 合否のみの評価により単位認定される「R」評価の科目 (在学中に他大学あるいは留学先大学等で履修して単位を修得した科目、既修得単位認定を受けた科目、大学コンソーシアムやまなし単位互換事業に係わる科目、検定試験などにより単位認定を受けた科目など) は対象としません。

4. GPA の種類と算出式

GPA 対象科目について、「学期 GPA」と「通算 GPA」に区分して計算を行います (計算値は小数点以下第 2 位を四捨五入して表記します)。学期 GPA は、当該学期の学修状況・成果を示す指標であり、利用方法は基本的に、次学期へ向けての修学指導に限定されます。一方、通算 GPA は、在学中の全期間の学修状況・成果を示す指標であり、さまざまな判定の資料として利用されます。両者とも分母は D 評価となった科目の単位数を含みます。

- (1) 学期 GPA の算出式:

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期に履修登録した各科目の (GP} \times \text{単位数) の合計}}{\text{当該学期の成績評価を受けた全科目の単位数合計}}$$
- (2) 通算 GPA の算出式:

$$\text{通算 GPA} = \frac{\text{入学時から履修登録した各科目の (GP} \times \text{単位数) の合計}}{\text{入学時から成績評価を受けた全科目の単位数合計}}$$

なお、所定の手続きにより「履修取消」を行った科目は、計算に含まれません。不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修したが再び不合格の評価であった場合の、それぞれの再履修前の不合格評価については、通算 GPA には算入しません。ただし、学期 GPA にはそれぞれ算入します。

5. GPAの記載と通知

各学期に配布される修得単位通知表には、各科目の5段階評価（S・A・B・C・D）、学期 GPA 及び通算 GPA を記載し、学生に通知します。不合格科目を再履修して合格となった場合にも、不合格の成績と新たな成績を併記して記載します（ただし、成績証明書には不合格の学修成績は記載しません）。

GPAによる学修状況・学修成果の判断基準

GPA	学修状況および学修成果の総合的判断
4.5～3.5	学修への取り組み状況が非常に良好な大変優れた成果です。
3.4～2.5	学修への取り組み状況が良好な優れた成果です。
2.4～1.5	学修への取り組み状況が概ね良好な成果です。
1.4～0.5	学修への取り組みが不十分でより一層の努力が必要です。
0.5 未満	学修への取り組みが著しく不足しており相当の努力が必要です。

学期 GPA 「1.5 未満」の学生については、担任またはゼミ指導教員（飯田キャンパス）・チューター（池田キャンパス）による履修および学修に関する指導が行われる予定です。自分の履修行動や学修状況をふりかえり、学修意欲を高めて改善を図る機会にしてください。

6. 学修情報支援システム の活用

「情報公開システム」からログ・インして、学修（成績案内）情報ネットワークシステム（仮称）にアクセスすると、以下のような切り口で自分の学修状況を把握することができます。

- (1) 全学のなかでの通算 GPA の位置づけ
入学期から前学期までの通算 GPA が、在学する全学生の分布において、どこに位置づけられるか、GPA0.0、および 0.5～4.5 の間を 0.09 ずつの間隔で 50 区間に分割したグラフ上で確認することができます。
- (2) 学期 GPA の遷移
入学期から前学期までの学期ごとにみた GPA 値の推移を「成績優秀域(上位 5%)」「成績良好域(上位 20%)」「成績警戒域(下位 20%)」「成績低迷域(下位 5%)」などのレンジで確認することができます。
- (3) 学期ごとの通算 GPA 遷移
入学期から前学期までの通算 GPA 値の推移を「最優秀域(上位 2%)」「学修成果優秀領域(上位 10%)」「学修成果良好領域(上位 20%)」「問題領域(GPA2.0 未満)」「明らかに問題を抱えているレッドゾーン(GPA1.5 以下)」などのレンジで確認することができます。
- (4) 通算修得単位数の遷移
入学から前学期までの学期ごとの修得単位数の累積状況を確認することができます。
- (5) 現在までの成績評価の構成
入学から前学期までのレターグレード(S・A・B・C・D)の累積構成を円グラフで確認することができます。
- (6) 科目区別の GP 平均値
入学期から履修した科目を「全学共通科目」「専門科目」「教職科目」のような科目区分に分けて、履修者の GP 平均値(GPC)と自分の GP 平均値をグラフ上で確認することができます。

学期ごとに、システムに成績案内として開示される GPA 分布（ヒストグラム）等により、全学における自分の成績の相対的位置を確認して自己の学修状況を客観的に把握してください。そして、必要に応じて履修計画を変更・修正するなどの適正化を図り、意欲的に学修することのできる環境を整備して、より多くの学修成果が上げられるよう取り組みを強化してください。

以上

到達水準の高専間の統一状況

モデルコアカリキュラム(MCC)により全高専の卒業時の必須のレベルを統一

技術者が備えるべき能力	到達レベル					
	1 知識・記憶 レベル	2 理解 レベル	3 運用 レベル	4 分析 レベル	5 評価 レベル	6 創造 レベル
技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力						
I 数学	K	K	K	A	S	S
II 自然科学	K	K	K	A	S	S
III 人文・社会科学	K	K	K	A	S	S
IV 工学基礎	K	K	K	A	S	S
技術者が備えるべき分野別の専門的能力						
V 分野別の専門工学	K	K	K	K	A	S
VI 分野別の工学実験・実習能力	K	K	K	K	A	S
技術者が備えるべき分野横断的能力						
VII 汎用的技能	K	K	K	A	S	S
VIII 態度・志向性(人間力)	K	K	K	A	S	S
IX 総合的な学習経験と創造的思考力	K	K	K	A	S	S

CBT

数学、物理、化学はCBTで確認
今年度から専門分野も順次受験。
到達レベルごとに基準となる指標
を設け、作問は全国高専が分担、
その後レビューア－が確認すること
でレベルを担保

MCCには本科 (K)、専攻科 (A) 修了時のレベルと社会を設定に出ても成長を続けた先での到達目標 (S) が設定されている

分野横断的能力 (ジェネリックスキル)
スキルのルーブリックを設定し、PBLや卒業研究、グループワーク活動などの評価指標として利用できるようにして公開

実験スキル

実験スキルはレベルごとの実験書モデルと評価指標を作成し公開し各高専への導入を進めている
「何をどのようににすることが出来るようになったら到達したとみなすか」の目線での記述

共通の指標を明示し、座学科目以外の科目の教員間の評価指標の統一ができ、学生と教員の相互評価も可能とする

CBTと定期試験による水準の妥当性の担保

CBTは全高専が必須で受験

定期試験も水準の保証に重要

CBT受験後に統計的な分析

正答率から難易度の妥当性を判断し、設定レベルと問題の関係の妥当性が確認されたものを「アンカー問題」として蓄積

定期試験の水準の妥当性の担保の例（函館高専）

科目のMCCのレベル4をたとえば技術士1次試験レベルなど外部認証等のレベルで設定

チェックの観点

- 全科目の定期試験の問題や課題を技術士1次試験問題と比較
- 昨年度の問題や再試験との類似性の確認

実験実習能力のルーブリック評価水準の統一のための実験評価シート作成

分野名 電気電子分野 学年配当 4年 **実験名**

実験テーマ名 オペアンプ回路設計(過渡回路への応用) **MCCレベル**

到達レベル 3

番号 氏名

項目	スキル	到達目標	レベル3相当	自己評価
計画と実施	電圧の最大値、最小値、位相	電圧の波形を観測し、最大値、周期を測定することができる	3B 教員等の若干の助言を受けて、自ら電圧の波形を観測し、最大値、周期を測定することができる	D 教員等の助言を受けても、電圧の波形を観測し、最大値、周期を測定することができない
	オシロスコープ、直流電源、オシロスコープ、オシロメータ	オシロスコープ、直流電源、オシロメータを使用することができる	3A 自ら電圧の波形を観測し、最大値、周期を測定することができる	C 教員等の詳細な助言を受けながら、オシロスコープ、直流電源、オシロメータを操作することができる
機器・器具の準備と操作	オシロスコープ、直流電源、オシロメータ	オシロスコープ、直流電源、オシロメータを使用することができる	3B 教員等の若干の助言を受けて、自らオシロスコープ、直流電源、オシロメータを操作することができる	C 教員等の助言を受けても、オシロスコープ、直流電源、オシロメータを操作することができる
結果・分析・考察	数分回路、積分回路、加算回路の動作原理	実験結果に関して、数分回路、積分回路、加算回路の動作原理をオペアンプの動作原理から説明できる	3B 教員等の若干の助言を受けて、実験結果に関して、数分回路、積分回路、加算回路の動作原理をオペアンプの動作原理から説明できる	D 教員等の詳細な助言を受けても、実験結果に関して、数分回路、積分回路、加算回路の動作原理をオペアンプの動作原理から説明できない

学生によるレベルの自己評価欄

教員との相互評価

学生の評価と教員の評価の一致率は全分野平均で約90%

到達目標

助言無しにできる (優)

助言を受けてもできない (不可)

特定の実験スキルに対し「～ができる」という水準の優～不可の判断基準を明示

ルーブリックによる分野横断的能力の評価指標（抜粋）

MCCの項目 【チームワークカ】

MCCに設定されている水準の評価指標

観点	Level 1.	Level 2.	Level 3.
協力関係の形成	<p>チームのメンバーと意思疎通を図り、活動に参加できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チーム（グループ）のメンバーと意思疎通を図ることができる。 ○ 議論での意見交換、活動での作業など、チーム（グループ）の中で自分の活動をおこなうことができる。 	<p>メンバーの多様性を理解、尊重したうえで信頼関係の構築を図ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チーム（グループ）内で求められる自分の活動を実践することで、信頼にこたえることができる。 ○ 他のメンバーの考え方や価値観の違い、能力や特性の差異などを理解し、尊重することができる。 	<p>多様な考え方や、価値観を持つメンバーとの信頼関係を前提として、協力関係を維持・向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不和や意見の相違などがあった場合、協力関係を維持するための行動をとることができる。 ○ メンバーの置かれている状況を把握し、必要な場合に支援をおこなうなどの協力ができる。
協働への貢献	<p>チーム内での自分の役割を理解し、協力的に実践することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チーム（グループ）の目標達成に必要な自分の役割・業務を理解することができる。 ○ チーム（グループ）内の自分の役割・業務を実践することができる。 	<p>チームの目標を共有し、自分の役割と他のメンバーの役割との関係を理解したうえで、行動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チーム（グループ）の目標を理解し、自分の役割・業務と他のメンバーの役割・業務との関係を理解したうえで行動することができる。 ○ 自分の特性や強みを活かした役割・業務を考え、自発的に実践することができる。 	<p>チームの活動を活性化するために、自ら率先して役割を引き受けるとともに、目標を達成する為に他のメンバーと協力した行動をおこなうことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他のメンバーの活動状況を把握し、チーム活動の進捗状況や直面している問題などを把握することができる。 ○ 他のメンバーの活動状況等を把握し、メンバー間での協力体制を維持・強化するための働きかけをおこなうことができる。

どういう行動を取れば達成したとみなすかを明記

学生にチェックシートとして提示することで、
学生と教員の相互評価を可能とする

教員間さらにはインターシップでの企業からの評価のばらつきも防いでいる